

農林水産省気候変動適応計画の改定について

経緯

- 2015年8月 策定 (←環境省「第1次気候変動影響評価」を受けて)
- 2018年11月 改定
- 2021年10月 改定 (←環境省「第2次気候変動影響評価」を受けて)

改定の背景

- 日本の年平均気温は100年あたり1.26℃の割合で上昇。
- 農林水産業は気象変動の影響を受けやすく高温による品質低下などがすでに発生。
- 降雨量の増加等により災害の激甚化の傾向。農林水産分野でも被害が発生。

改定のポイント

- 「みどりの食料システム戦略」に基づき、生産安定技術・品種の開発・普及等を推進
- 農村地域の防災・減災機能の維持・向上
- 治山施設の設置や森林の整備等による山地災害の防止
- 総合的な食料安全保障の確立

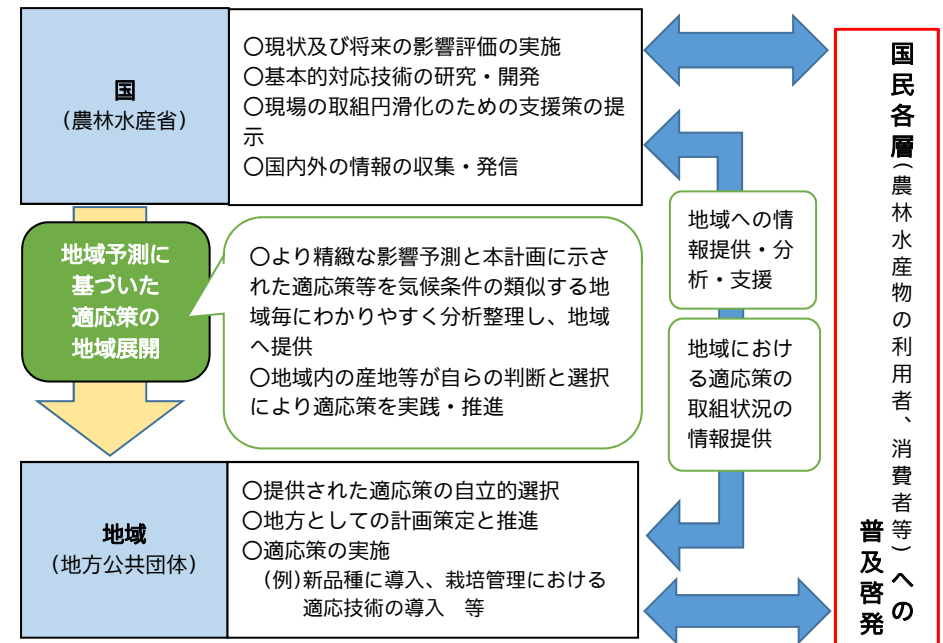
基本的な考え方

- 現状と将来の影響評価を踏まえた計画策定
- 温暖化等による影響への対応
- 極端な気象現象による災害への対応・防災
- 気象変動がもたらす機会の活用
- 関係者間での連携・役割分担、情報共有
- 計画の継続的な見直し、最適化による取組の推進

農林水産分野の主な適応策

	影響	対応策
水 稻	<ul style="list-style-type: none"> 高温による品質低下 全国的に一等米比率が低下 	<ul style="list-style-type: none"> 高温耐性品種の開発、普及 肥培管理、水管理等の基本技術の徹底
果 樹	<ul style="list-style-type: none"> りんご、ぶどうの着色不良、なしの発芽不良などの発生 りんご、みかんの栽培適地が移動 	<ul style="list-style-type: none"> 優良着色系統や黄緑色系統の導入 温暖を好む中晩柑への転換
畜産・飼料作物	<ul style="list-style-type: none"> 夏季に、乳用牛の乳量・乳成分・繁殖成績の低下や肉用牛、豚、肉用鶏の増体率の低下等 飼料作物の乾物収量が年々増加傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 畜舎内の散水、換気など暑熱対策の普及 栄養管理の適正化など生産性向上技術の開発 飼料作物の栽培体系の構築、栽培管理技術の開発・普及
農業生産基盤	<ul style="list-style-type: none"> 短時間強雨が頻発する一方で、少雨による渇水も発生 田植え時期の変化や用水管理労力の増加 農地の渇水被害などのリスク増加 	<ul style="list-style-type: none"> ハード・ソフト対策の適切な組合せによる農業用水の効率的利用、農村地域の防災 減災機能の維持・向上
林 業	<ul style="list-style-type: none"> 山腹崩壊などに伴う流木災害の発生 豪雨の発生頻度の増加により、山地災害の発生リスクが増加 降水量の少ない地域でスギ人工林の生育が不適になる地域が増加 	<ul style="list-style-type: none"> 治山施設の設置や森林の政党による山地災害の防止 気候変動の森林・林業への影響について調査・研究

将来予測に基づいた適応策の地域への展開



適応計画の継続的な見直しと取組の進捗管理

